



ましこ未来計画

計画期間 平成23年度～平成25年度

益子町

はじめに

『益子ならでは』のまちづくり

これから10年、20年先、私たちはこの益子町でどのような暮らしをしているでしょうか。「美しい自然に囲まれ、だれもが健康で、豊かな文化を楽しみながら、仕事に精を出す」。そんな未来を描いて本計画を策定しました。

計画策定においては、これから訪れる時代の背景を的確につかむため、長い時間軸という視野で世界を俯瞰いたしました。今後、温暖化などの**地球環境**の問題と、**経済のグローバル化**は避けて通れません。日本が目指すべきところは、「地球」をこの先、千年も2千年も持続可能な星にするための、最先端のテクノロジーとエコロジーを併せ持つ国になることではないでしょうか。そしてその人材を輩出するためのさまざまな環境を整えていくのが、町の役割でもあります。地域経済も世界をフィールドに考えることが必要となります。国内の問題に目を向けると、**少子化による人口減、高齢化、国の財政状況**などが考えられます。これらの問題に適切に対応していくためには、新たな発想や仕組みづくりなどの「**創造力**」を発揮していかなければなりません。高齢化社会への対策としては、**生涯現役**という状況を構築していくことが大切です。国の財政状況からして、中央集権から地域主権へという流れが、今後ますます加速するでしょう。地方自治体は、その**経営力**が求められることとなります。地方の自治体は、いかに自ら付加価値を生み出せるか、そして国民は、一人ひとりが**自立心**を持って国に貢献することができるかが問われる時代になります。

以上のような国内外のさまざまな状況を踏まえ、「ましこ未来計画」においては、20年後の幸せな町を夢見てまいります。20年後に楽しめるような桜やモミジを各所に植えること。循環型のまちをつくること。スポーツをもっともっと楽しめるようにすること。益子の食文化を育むこと。農業を通して交流人口を増やし、学びや出会いの場をつくること。スモールビジネスを推進して、益子らしい商業の場をつくること。生涯現役で活躍できるまちにすること。女性がさらに輝くことができるまちにすること。町内に優良な企業を増やすこと。国際文化都市になること。などなどたくさんの夢を計画に詰め込みました。

今回、この計画書を全戸配布させていただいたのは、町民の皆さまの**まちづくりへのご参加**が何よりも大切であると考えたからです。できるところから少しずつ力を出し合って、「**益子**」という**共同体**を育ててまいりたいと考えております。

町民の皆さまには、先人たちから受け継いだこの益子のよさを存分に伸ばし、**世界に誇る素晴らしい町**をつくって次世代につないでいくため、共に歩いていただけますよう心からお願い申し上げます。

平成23年3月

益子町長 大塚 朋之

目次

美しいまちをつくる	1
1 環境にやさしいまちづくり	2
2 美しい景観づくり	6
3 花をいかした地域づくり	7
健康なまちをつくる	9
1 食を通じた健康づくり	10
2 運動を通じた健康づくり	12
3 健全な心を育む健康づくり	15
文化のまちをつくる	17
1 世界につながる陶芸のまちづくり	18
2 歴史的遺産をいかした益子の魅力づくり	19
3 新たな文化事業の創造	20
4 世界にはばたく人材の育成	22
仕事のあるまちをつくる	23
1 地域農業の振興	24
2 企業誘致の推進	25
3 魅力ある商店街の形成	27
4 起業者・就労希望者の支援	29
5 まちPR活動の推進	30
自立したまちをつくる	31
1 行政改革の推進	32
2 健全な財政の推進	36